

子ども向け粘土開発
コンニャクと食品素材だけ使用

読売新聞12月1日より一部抜粋

日本の農業就業人口はここ20年で半減した。そんな中農業分野の女性人気は明るい兆しで、青森県は13年から全国の女性農業従事者と企業を結びつける「農業女子プロジェクト」をスタートさせ、メンバーは当初の37人から372人に増え、農作業で培ったアイデアを挙げ、現在25の企業が主に農業分野向けの商品開発やサービスに活用している。

バレンタインもロマンスチエアでカシヤッ！

皆様からの情報・ご意見をお待ちしております
 県史から版では、食品・環境等を中心に情報を発信しております。取り上げていただきたいものや、旬な話題等がありましたら、お気軽にご連絡ください。
 一般社団法人県史研究所 県史から版事務局

電話 FAX Eメール
0256-8310 0256-8311 info@kenoh-labo.or.jp

【決定版！】究極のノロウイルス対策！！

ノロウイルス対策！！

家庭で食事をする前に手を洗う人は半数にとどまることが消費者庁の調査で分かった。調査は全国の十六歳〜六十五歳の男女二千人を対象にインターネットで十月に実施。調理や食事の際の手洗いのタイミングを聞いたところ「調理をする前」85%、「食事をする前」は53%だった。(複数回答)

トイレの後に手を洗わないことがある人は15%いた。自分以外の人の世話をする際の手洗いは「嘔吐物を処理した後」で42%、「オムツ替えやトイレ介助の後」で33%など、総じて低かった。厚労省によると今秋はこれまで検出例の少ない型のノロウイルスの集団感染が多く、流行が心配されている。消費者庁は「病原菌は目に見える。食事や調理の前、トイレの後には必ず手を洗ってほしい」と話している。

読売新聞より抜粋

大学の農業系学部で女子学生の割合が年々増えている。以前は泥くさいイメージが強かったが最近は理系の女子学生を指す「リケジョ」ならぬ「ノケジョ（農業系女子）」という呼び名も大学関係者の間に登場。食や健康など生活と結びついたテーマを扱う学部の増加が背景にあるようで、農作業で磨いた「女子力」を企業活動に生かす取り組みも行われている。

就職も幅広く

文部科学省によると89年度に20%だった全国の農学部の女子学生の割合は2014年度には43%に。「生命」や「資源」などの名がつく「農学系」全般だと更に多いとみられる。東京農業大では10年度、北海道網走市に「食品香粧学科」を設立し、化粧品メーカーなどと連携し、肌のケアに必要な成分や商品開発のノウハウなどを学べるのが売りで、半分以上を女子が占める。同大や近畿大ではガーデニングなどを通じ心身の状態を改善する「園芸療法士」の資格を取得できる学科もあり、こちらも女子に人気が高い。岐阜大の福井教授は「農学は男女分け隔てなく馴染み易い学問。官公庁や化粧品、食品メーカーまで就職の幅が広いことも女子学生に人気が高い理由だと思う」と歓迎している。

今年で7回目となる弊所のイルミネーション点灯式イベント「イルミネーション! コミュニケーション!」を12月1日に開催いたしました。イベントは3部構成で1部は講演会で料理や食材、クラフト材料として、また健康や美容に役立つという「ハーブ」についてハーブ農園を運営されている永嶋節子様より「元気でイキイキ!ハーブのある暮らしで」と題して講演、第2部はイルミネーションの点灯式、第3部は異業種交流会と進行了ました。

第一部の講演会では講師の永嶋様よりハーブは、人々の生活に役立つ植物の総称であり、あらゆる草木に多くの良さがある。殆どの植物がハーブに該当すると教わりました。

参加者にローズマリーの枝がブレゼントされ、会場は心地よい香りに包まれました。

今年も多くの企業の皆さま方からのご協賛により昨年より2千個増球し2万球の電飾となり、県央地域の癒しスポットとなつていきます。当日この日を待ちわびた近所の子どもたちが、電飾されたロマンスベンチに座つて記念写真に納まつていました。

3月17日
 ハートのある春らしで
 水鳥 節子 様